

中医協 総-1-2
17.8.3

高度先進医療の新規技術の概要について

(平成17年8月3日 中医協総会用資料)

技術名：グルタミン酸受容体自己抗体による
自己免疫性神経疾患の診断

○適応症：ラスムッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん、オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群

○技術の概要：

ラスムッセン脳炎、小児の慢性進行性持続性部分てんかん、オプソクローヌス・ミオクローヌス症候群は、感染症などを契機としててんかん、眼振、小脳失調、片麻痺、精神発達遅滞などを発症する予後不良の自己免疫疾患である。

これらの疾患に対し、その発症原因と考えられるグルタミン酸受容体自己抗体の有無を検査し、疾患の診断を行う。

これらの疾患では大脳半球切除術、ステロイドパルス療法などの、侵襲の大きい治療が必要となるが、正確な診断により、従前より早期に的確な治療法の選択・決定が可能となる。

○申請医療機関：静岡てんかん・神経医療センター
(静岡県静岡市・410床)

○実施科：小児科・精神科・神経内科・内科・脳神経外科・麻酔科・リハビリテーション科

○症例数：13例

○申請日：平成16年8月6日

○費用の例（入院83日間）：（高度先進医療分）1万6千円
（特定療養費分）126万3千円

※ ラスムッセン脳炎 (Rasmussen's encephalitis)

小児期に発病し、難治性てんかん症状を有する慢性脳炎。血管周囲炎症細胞浸潤などの脳組織所見を特徴とし、持続性部分てんかんなどのてんかん発作が難治に経過し、片麻痺等が出現する。近年の研究で、グルタミン酸受容体に対する自己抗体がその病因と報告されている。

技術名：腹腔鏡下広汎子宮全摘出術

○適応症：早期子宮頸癌

(子宮の可動性、進展性が良好で腹腔鏡操作に支障のない、
臨床進行期 1 b 期までの子宮頸癌)

○技術の概要：

早期子宮頸癌に対し、腹腔鏡を用いて腔式子宮全摘術を行う。開腹手術と比較して患者への侵襲が小さく、術後早期の離床、退院が可能になる。

○申請医療機関：旭川医科大学医学部附属病院
(北海道旭川市・602 床)

○実施科：産婦人科

○症例数：18 例

○申請日：平成 16 年 12 月 8 日

○費用の例 (入院 43 日間)：(高度先進医療分) 54 万円
(特定療養費分) 58 万 5 千円

技術名：一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術

○適応症：双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の母児
(妊娠 16～26 週)

○技術の概要：

双胎間輸血症候群は、一絨毛膜性双胎妊娠において、胎盤表面の双胎間血管吻合を介して一方の児（供血児）から他方（受血児）へと血流がシフトすることにより、羊水過小・羊水過多を生じるもので、供血児・受血児とも死亡率が高くなり、中枢神経障害を残す率も高い。

これに対し、胎盤表面の吻合血管を内視鏡により同定し、レーザー光により焼灼して凝固させ、児の予後を改善させる。

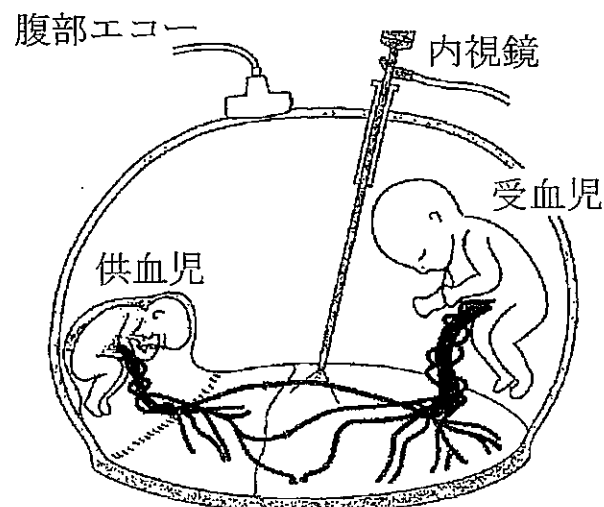
○申請医療機関：国立成育医療センター
(東京都世田谷区・500 床)

○実施科：小児科・産婦人科・麻酔科

○症例数：20 例

○申請日：平成 17 年 2 月 16 日

○費用の例（入院 101 日間）：（高度先進医療分）46 万 9 千円
（特定療養費分）194 万 9 千円



(国立成育医療センターより提供)